

科目区分	キャリア系列／キャリア・ビジネス教育系列						
科目名	インターンシップ						
担当教員	単位認定者：青谷 実知代						
学期	集中講義	曜日・時限	集中1	配当学年	3	単位数	1.0
授業のテーマ	将来のキャリアに関連した就業体験を行い、社会で働くことの意義を考える						
授業の概要	企業実習に行く前の事前教育では、まずインターンシップとは何かを理解する。次に仕事への取り組み、ビジネス・マナーなど、心の準備と目的を的確にさせ、実習の効果を高めるようにする。企業での実習体験を通して、社会人として必要な資質を学び、将来自分が何をやりたいのか、それをどう実現するのかを学生が主体的に考え、取り組めるようにサポートする。また自分の将来に必要な仕事へ積極的にチャレンジできるようサポートする。						
到達目標	①就業体験を通じて、将来の自立と学生時代の過ごし方を含めた自分のキャリアを主体的に考え実行できるようになる。 ②社会で働く意義を自ら捉え、自己PRや志望動機につなげることができる						
授業計画	<p>【事前学習 7月8日（土）担当：福田洋子】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ビジネスインターンシップについてⅠ：日本の状況 2. ビジネスインターンシップについてⅡ：海外の状況 3. 業種について 4. 職種について 5. 会社の仕組み（組織の役割） 6. 会社の仕組み（営業・事務の役割） 7. ビジネスマナー～基礎編～ 8. ビジネスマナー～応用編～ 9. 電話のマナー 10. 受付のマナー 11. 訪問のマナー 12. 実習先企業について調べてみる 13. 実習先のマッチングⅠ 14. 実習先のマッチングⅡ 15. ビジネス文書Ⅰ（受入れのお願い） 16. ビジネス文書Ⅱ（お礼状の書き方） 17. 挨拶 <p>【夏休み中実習】 実習時間は5日間35時間以上を原則とする。</p> <ol style="list-style-type: none"> 18. 実習Ⅰ（各企業での実習） 19. 実習Ⅱ 20. 実習Ⅲ 21. 実習Ⅳ 22. 実習Ⅴ 23. 実習Ⅵ <p>【事後学習 9月21日（木）担当：青谷実知代】</p> <ol style="list-style-type: none"> 24. インターンシップの振り返り（社会で働く意義） 25. 業界・業種の特徴 26. 実習体験の内容と振り返り 27. グループディスディスカッション（業界・業種） 28. プレゼンテーション（報告書のまとめ方） 29. プレゼンテーション～報告会～ 30. 総括（事後レポート） 						
授業外における学習（準備学習の内容）	ウェブ・新聞などで、常に社会の動きを見る。 一般常識、マナーなどの知識を深める。						
授業方法	企業・団体の職場で就業体験実習を行う。						
評価基準と評価方法	事前レポート（20%）、事後レポート（20%）、実習先の評価（60%）で総合的に判断する。						
教科書	なし（必要に応じて資料を配布する）						

参考書	随時紹介する。
-----	---------

科目区分	キャリア系列／キャリア・ビジネス教育系列						
科目名	キャリアデザインI						
担当教員	川中 紀子・大塩 佐公子						
学期	前期／1st semester	曜日・時限	金曜4	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	「キャリア」とはどういう人生を送りたいか常に考え続けることです。キャリアのスタートラインに立つ大学生のうちに、その基本となる考え方や行動の仕方を学びます。						
授業の概要	自分や社会を知りながら、「生き方」「働き方」「大学生生活の過ごし方」を自分で考え、行動するきっかけをつくる授業です。これから始まる4年間の大学生活をどう過ごすかは、将来に大きな影響を与えます。キャリアデザインIでは、ワークやグループディスカッション等を通して「自分を知る」「社会を知る」「学問とのつながりを考える」ことを中心に、自分（皆さん一人ひとり）にとっていい人生を送るために「生き方」「働き方」「大学生生活の過ごし方」を自分で考え、行動するきっかけをつくりまします。この講座を受講することにより、以下の2点の達成を目指します。 ① 社会に出る（就職）ための準備や練習を今のうちから始めることができます。 ② あなた自身の大学生活をより充実させることができます。						
到達目標	以下3点を目標として設定しています。 「自分の良さを知る」：自分のいいところを一つでも自信をもって語れるようになる 「コミュニケーション力を磨く」：自分の意見を隠することなく話し、相手の主張をしっかり受け止められるようになる 「目標の立て方を知る」：大学生活の中での目標とその実行計画を立てることができる						
授業計画	第1回 キャリアデザインって何だろう？ / 初回レビュー 第2回 コミュニケーションとは / 聴く・話す力を伸ばす 第3回 自分について考えよう 第4回 これまでの経験から考える自分の強みと課題 第5回 「社会に出る」とは 第6回 社会が求める人材とは 第7回 PDCAサイクル / 自分の考えた行動したことを履歴として積み上げる意味（マナバ） 第8回 中間レビュー 第9回 業界・業種・職種について考える① 第10回 業界・業種・職種について考える② 第11回 社会と学問の関係・「学び」の意味を考える 第12回 私のキャリアデザインマップ作成① 第13回 私のキャリアデザインマップ作成②～発表 第14回 最終レビュー ※ワークシート類提出 第15回 まとめ ～これからの大学生活をどう過ごすか～ ※レポート作成、テスト実施						
授業外における学習（準備学習の内容）	・各自社会人にインタビューをし、指定のワークシートにまとめて授業内で報告します。 ・授業内で考えた内容を、今後も考え続けていくための素材として、マナバに入力をします。 ・その他、宿題は都度指示をしますので、期限を守って取り組んで下さい。						
授業方法	演習中心						
評価基準と評価方法	平常点及びプレゼン点を50%、レポートやワークシート等の課題提出とテストの結果を合わせて50%として、総合的に判断します。 ■平常点及びプレゼン点について・毎回コミュニケーションシートを書いていただきます。テーマは講師が指定します。 ・コミュニケーションシートの提出が9回以下の場合、平常点は0点になります。 また、講義への参加態度（積極性、主体性、協調性など）も平常点に含まれますので、参加態度により加点・減点をします。 ・「私のキャリアデザインマップ」を発表していただき、プレゼン内容を評価の対象とします。 ■レポートやワークシート・テストについて ・講義で使用するワークシートのうち、講師が指定したものをコピーして提出していただきます。 ・講義終了時にレポートを提出していただきます。 ・講義内で使用する「大学生基礎力レポートI」の学力部分に付随するテストを行い、評価対象とします。テストの内容は「国語基礎」「数学基礎」での開講内容と関連しています。 *具体的な課題内容については講座終盤に発表し、講義時に提出していただく予定です。						

教科書	「MY CAREER NOTE I (ADVANCE)」 授業内のワークで使用しますので、毎回必ず持参して下さい。
参考書	

科目区分	キャリア系列／キャリア・ビジネス教育系列						
科目名	キャリアデザインI						
担当教員	黒木 邦彦・池松 華奈子						
学期	前期／1st semester	曜日・時限	水曜1	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	「キャリア」とはどういう人生を送りたいか常に考え続けることです。キャリアのスタートラインに立つ大学生のうちに、その基本となる考え方や行動の仕方を学びます。						
授業の概要	自分や社会を知りながら、「生き方」「働き方」「大学生生活の過ごし方」を自分で考え、行動するきっかけをつくる授業です。これから始まる4年間の大学生活をどう過ごすかは、将来に大きな影響を与えます。キャリアデザインIでは、ワークやグループディスカッション等を通して「自分を知る」「社会を知る」「学問とのつながりを考える」ことを中心に、自分（皆さん一人ひとり）にとっていい人生を送るために「生き方」「働き方」「大学生生活の過ごし方」を自分で考え、行動するきっかけをつくります。この講座を受講することにより、以下の2点の達成を目指します。 ① 社会に出る（就職）ための準備や練習を今のうちから始めることができます。 ② あなた自身の大学生活をより充実させることができます。						
到達目標	以下3点を目標として設定しています。 「自分の良さを知る」：自分のいいところを一つでも自信をもって語れるようになる 「コミュニケーション力を磨く」：自分の意見を隠することなく話し、相手の主張をしっかり受け止められるようになる 「目標の立て方を知る」：大学生活の中での目標とその実行計画を立てることができる						
授業計画	第1回 キャリアデザインって何だろう？ / 初回レビュー 第2回 コミュニケーションとは / 聴く・話す力を伸ばす 第3回 自分について考えよう 第4回 これまでの経験から考える自分の強みと課題 第5回 「社会に出る」とは 第6回 社会が求める人材とは 第7回 PDCAサイクル / 自分の考えた行動したことを履歴として積み上げる意味（マナバ） 第8回 中間レビュー 第9回 業界・業種・職種について考える① 第10回 業界・業種・職種について考える② 第11回 社会と学問の関係・「学び」の意味を考える 第12回 私のキャリアデザインマップ作成① 第13回 私のキャリアデザインマップ作成②～発表 第14回 最終レビュー ※ワークシート類提出 第15回 まとめ ～これからの大学生活をどう過ごすか～ ※レポート作成、テスト実施						
授業外における学習（準備学習の内容）	・各自社会人にインタビューをし、指定のワークシートにまとめて授業内で報告します。 ・授業内で考えた内容を、今後も考え続けていくための素材として、マナバに入力をします。 ・その他、宿題は都度指示をしますので、期限を守って取り組んで下さい。						
授業方法	演習中心						
評価基準と評価方法	平常点及びプレゼン点を50%、レポートやワークシート等の課題提出とテストの結果を合わせて50%として、総合的に判断します。 ■平常点及びプレゼン点について・毎回コミュニケーションシートを書いていただきます。テーマは講師が指定します。 ・コミュニケーションシートの提出が9回以下の場合、平常点は0点になります。 また、講義への参加態度（積極性、主体性、協調性など）も平常点に含まれますので、参加態度により加点・減点をします。 ・「私のキャリアデザインマップ」を発表していただき、プレゼン内容を評価の対象とします。 ■レポートやワークシート・テストについて ・講義で使用するワークシートのうち、講師が指定したものをコピーして提出していただきます。 ・講義終了時にレポートを提出していただきます。 ・講義内で使用する「大学生基礎力レポートI」の学力部分に付随するテストを行い、評価対象とします。テストの内容は「国語基礎」「数学基礎」での開講内容と関連しています。 *具体的な課題内容については講座終盤に発表し、講義時に提出していただく予定です。						

教科書	「MY CAREER NOTE I (ADVANCE)」 授業内のワークで使用しますので、毎回必ず持参して下さい。
参考書	

科目区分	キャリア系列／キャリア・ビジネス教育系列						
科目名	キャリアデザインI						
担当教員	黒崎 優美・池松 華奈子						
学期	前期／1st semester	曜日・時限	水曜3	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	「キャリア」とはどういう人生を送りたいか常に考え続けることです。キャリアのスタートラインに立つ大学生のうちに、その基本となる考え方や行動の仕方を学びます。						
授業の概要	自分や社会を知りながら、「生き方」「働き方」「大学生生活の過ごし方」を自分で考え、行動するきっかけをつくる授業です。これから始まる4年間の大学生活をどう過ごすかは、将来に大きな影響を与えます。キャリアデザインIでは、ワークやグループディスカッション等を通して「自分を知る」「社会を知る」「学問とのつながりを考える」ことを中心に、自分（皆さん一人ひとり）にとっていい人生を送るために「生き方」「働き方」「大学生生活の過ごし方」を自分で考え、行動するきっかけをつくりまします。この講座を受講することにより、以下の2点の達成を目指します。 ① 社会に出る（就職）ための準備や練習を今のうちから始めることができます。 ② あなた自身の大学生活をより充実させることができます。						
到達目標	以下3点を目標として設定しています。 「自分の良さを知る」：自分のいいところを一つでも自信をもって語れるようになる 「コミュニケーション力を磨く」：自分の意見を隠することなく話し、相手の主張をしっかり受け止められるようになる 「目標の立て方を知る」：大学生活の中での目標とその実行計画を立てることができる						
授業計画	第1回 キャリアデザインって何だろう？ / 初回レビュー 第2回 コミュニケーションとは / 聴く・話す力を伸ばす 第3回 自分について考えよう 第4回 これまでの経験から考える自分の強みと課題 第5回 「社会に出る」とは 第6回 社会が求める人材とは 第7回 PDCAサイクル / 自分の考えた行動したことを履歴として積み上げる意味（マナバ） 第8回 中間レビュー 第9回 業界・業種・職種について考える① 第10回 業界・業種・職種について考える② 第11回 社会と学問の関係・「学び」の意味を考える 第12回 私のキャリアデザインマップ作成① 第13回 私のキャリアデザインマップ作成②～発表 第14回 最終レビュー ※ワークシート類提出 第15回 まとめ ～これからの大学生活をどう過ごすか～ ※レポート作成、テスト実施						
授業外における学習（準備学習の内容）	・各自社会人にインタビューをし、指定のワークシートにまとめて授業内で報告します。 ・授業内で考えた内容を、今後も考え続けていくための素材として、マナバに入力をします。 ・その他、宿題は都度指示をしますので、期限を守って取り組んで下さい。						
授業方法	演習中心						
評価基準と評価方法	平常点及びプレゼン点を50%、レポートやワークシート等の課題提出とテストの結果を合わせて50%として、総合的に判断します。 ■平常点及びプレゼン点について・毎回コミュニケーションシートを書いていただきます。テーマは講師が指定します。 ・コミュニケーションシートの提出が9回以下の場合、平常点は0点になります。 また、講義への参加態度（積極性、主体性、協調性など）も平常点に含まれますので、参加態度により加点・減点をします。 ・「私のキャリアデザインマップ」を発表していただき、プレゼン内容を評価の対象とします。 ■レポートやワークシート・テストについて ・講義で使用するワークシートのうち、講師が指定したものをコピーして提出していただきます。 ・講義終了時にレポートを提出していただきます。 ・講義内で使用する「大学生基礎力レポートI」の学力部分に付随するテストを行い、評価対象とします。テストの内容は「国語基礎」「数学基礎」での開講内容と関連しています。 *具体的な課題内容については講座終盤に発表し、講義時に提出していただく予定です。						

教科書	「MY CAREER NOTE I (ADVANCE)」 授業内のワークで使用しますので、毎回必ず持参して下さい。
参考書	

科目区分	キャリア系列／キャリア・ビジネス教育系列						
科目名	キャリアデザインI						
担当教員	中村 茂・大平 絵美						
学期	前期／1st semester	曜日・時限	水曜1	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	「キャリア」とはどういう人生を送りたいか常に考え続けることです。キャリアのスタートラインに立つ大学生のうちに、その基本となる考え方や行動の仕方を学びます。						
授業の概要	自分や社会を知りながら、「生き方」「働き方」「大学生生活の過ごし方」を自分で考え、行動するきっかけをつくる授業です。これから始まる4年間の大学生活をどう過ごすかは、将来に大きな影響を与えます。キャリアデザインIでは、ワークやグループディスカッション等を通して「自分を知る」「社会を知る」「学問とのつながりを考える」ことを中心に、自分（皆さん一人ひとり）にとっていい人生を送るために「生き方」「働き方」「大学生生活の過ごし方」を自分で考え、行動するきっかけをつくりまします。この講座を受講することにより、以下の2点の達成を目指します。 ① 社会に出る（就職）ための準備や練習を今のうちから始めることができます。 ② あなた自身の大学生活をより充実させることができます。						
到達目標	以下3点を目標として設定しています。 「自分の良さを知る」：自分のいいところを一つでも自信をもって語れるようになる 「コミュニケーション力を磨く」：自分の意見を隠することなく話し、相手の主張をしっかり受け止められるようになる 「目標の立て方を知る」：大学生活の中での目標とその実行計画を立てることができる						
授業計画	第1回 キャリアデザインって何だろう？ / 初回レビュー 第2回 コミュニケーションとは / 聴く・話す力を伸ばす 第3回 自分について考えよう 第4回 これまでの経験から考える自分の強みと課題 第5回 「社会に出る」とは 第6回 社会が求める人材とは 第7回 PDCAサイクル / 自分の考えた行動したことを履歴として積み上げる意味（マナバ） 第8回 中間レビュー 第9回 業界・業種・職種について考える① 第10回 業界・業種・職種について考える② 第11回 社会と学問の関係・「学び」の意味を考える 第12回 私のキャリアデザインマップ作成① 第13回 私のキャリアデザインマップ作成②～発表 第14回 最終レビュー ※ワークシート類提出 第15回 まとめ ～これからの大学生活をどう過ごすか～ ※レポート作成、テスト実施						
授業外における学習（準備学習の内容）	・各自社会人にインタビューをし、指定のワークシートにまとめて授業内で報告します。 ・授業内で考えた内容を、今後も考え続けていくための素材として、マナバに入力をします。 ・その他、宿題は都度指示をしますので、期限を守って取り組んで下さい。						
授業方法	演習中心						
評価基準と評価方法	平常点及びプレゼン点を50%、レポートやワークシート等の課題提出とテストの結果を合わせて50%として、総合的に判断します。 ■平常点及びプレゼン点について・毎回コミュニケーションシートを書いていただきます。テーマは講師が指定します。 ・コミュニケーションシートの提出が9回以下の場合、平常点は0点になります。 また、講義への参加態度（積極性、主体性、協調性など）も平常点に含まれますので、参加態度により加点・減点をします。 ・「私のキャリアデザインマップ」を発表していただき、プレゼン内容を評価の対象とします。 ■レポートやワークシート・テストについて ・講義で使用するワークシートのうち、講師が指定したものをコピーして提出していただきます。 ・講義終了時にレポートを提出していただきます。 ・講義内で使用する「大学生基礎力レポートI」の学力部分に付随するテストを行い、評価対象とします。テストの内容は「国語基礎」「数学基礎」での開講内容と関連しています。 *具体的な課題内容については講座終盤に発表し、講義時に提出していただく予定です。						

教科書	「MY CAREER NOTE I (ADVANCE)」 授業内のワークで使用しますので、毎回必ず持参して下さい。
参考書	

科目区分	キャリア系列／キャリア・ビジネス教育系列						
科目名	キャリアデザインI						
担当教員	前田 直哉・三木 吉光子						
学期	前期／1st semester	曜日・時限	水曜1	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	「キャリア」とはどういう人生を送りたいか常に考え続けることです。キャリアのスタートラインに立つ大学生のうちに、その基本となる考え方や行動の仕方を学びます。						
授業の概要	自分や社会を知りながら、「生き方」「働き方」「大学生生活の過ごし方」を自分で考え、行動するきっかけをつくる授業です。これから始まる4年間の大学生活をどう過ごすかは、将来に大きな影響を与えます。キャリアデザインIでは、ワークやグループディスカッション等を通して「自分を知る」「社会を知る」「学問とのつながりを考える」ことを中心に、自分（皆さん一人ひとり）にとっていい人生を送るために「生き方」「働き方」「大学生生活の過ごし方」を自分で考え、行動するきっかけをつくります。この講座を受講することにより、以下の2点の達成を目指します。 ① 社会に出る（就職）ための準備や練習を今のうちから始めることができます。 ② あなた自身の大学生活をより充実させることができます。						
到達目標	以下3点を目標として設定しています。 「自分の良さを知る」：自分のいいところを一つでも自信をもって語れるようになる 「コミュニケーション力を磨く」：自分の意見を隠することなく話し、相手の主張をしっかり受け止められるようになる 「目標の立て方を知る」：大学生活の中での目標とその実行計画を立てることができる						
授業計画	第1回 キャリアデザインって何だろう？ / 初回レビュー 第2回 コミュニケーションとは / 聴く・話す力を伸ばす 第3回 自分について考えよう 第4回 これまでの経験から考える自分の強みと課題 第5回 「社会に出る」とは 第6回 社会が求める人材とは 第7回 PDCAサイクル / 自分の考えた行動したことを履歴として積み上げる意味（マナバ） 第8回 中間レビュー 第9回 業界・業種・職種について考える① 第10回 業界・業種・職種について考える② 第11回 社会と学問の関係・「学び」の意味を考える 第12回 私のキャリアデザインマップ作成① 第13回 私のキャリアデザインマップ作成②～発表 第14回 最終レビュー ※ワークシート類提出 第15回 まとめ ～これからの大学生活をどう過ごすか～ ※レポート作成、テスト実施						
授業外における学習（準備学習の内容）	・各自社会人にインタビューをし、指定のワークシートにまとめて授業内で報告します。 ・授業内で考えた内容を、今後も考え続けていくための素材として、マナバに入力をします。 ・その他、宿題は都度指示をしますので、期限を守って取り組んで下さい。						
授業方法	演習中心						
評価基準と評価方法	平常点及びプレゼン点を50%、レポートやワークシート等の課題提出とテストの結果を合わせて50%として、総合的に判断します。 ■平常点及びプレゼン点について・毎回コミュニケーションシートを書いていただきます。テーマは講師が指定します。 ・コミュニケーションシートの提出が9回以下の場合、平常点は0点になります。 また、講義への参加態度（積極性、主体性、協調性など）も平常点に含みますので、参加態度により加点・減点をします。 ・「私のキャリアデザインマップ」を発表していただき、プレゼン内容を評価の対象とします。 ■レポートやワークシート・テストについて ・講義で使用するワークシートのうち、講師が指定したものをコピーして提出していただきます。 ・講義終了時にレポートを提出していただきます。 ・講義内で使用する「大学生基礎力レポートI」の学力部分に付随するテストを行い、評価対象とします。テストの内容は「国語基礎」「数学基礎」での開講内容と関連しています。 *具体的な課題内容については講座終盤に発表し、講義時に提出していただく予定です。						

教科書	「MY CAREER NOTE I (ADVANCE)」 授業内のワークで使用しますので、毎回必ず持参して下さい。
参考書	

科目区分	キャリア系列／キャリア・ビジネス教育系列						
科目名	キャリアデザインII						
担当教員	土肥 伊都子・池松 華奈子						
学期	前期／1st semester	曜日・時限	水曜2	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	「キャリア」とはどういう人生を送りたいか常に考え続けることです。キャリアのスタートラインに立つ大学生のうちに、その基本となる考え方や行動の仕方を学びます。						
授業の概要	<p>3年冬からの本格的な就職活動に臨む前に、社会で求められる基本的スキルを身につけておくことは、より自分に合った進路選択ができる可能性が高まり、また自信にもつながります。</p> <p>キャリアデザインIIでは、ワークやグループディスカッション、プレゼンテーション等を通して、「社会で求められる基本的スキル【コミュニケーション力・アサーション（自分も相手も尊重する主張方法）マナー・敬語】」を修得します。また、これらを大学生活の中で身につけられるように導きます。</p> <p>この講座を受講することにより、</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 社会に出る（就職）ための準備や練習を今のうちから始めることができます。 ② 女性としての生き方を考え、マナーや敬語、コミュニケーションのケースワークを学ぶことで後の就職活動に役立てることができます。 ③ あなた自身の大学生活をより充実させることができます。 						
到達目標	<p>以下3点を目標として設定しています。</p> <p>「社会で求められるコミュニケーション力を知る」： 基本的なマナーや敬語を身につけた上で、相手に配慮をしながら自分の意見をしっかり相手に伝えることができる。</p> <p>「女性としての生き方を学ぶ」： 女性を取り巻く社会や環境の変化を知り、今後、自分はどのようになりたいか考えることができる</p> <p>「目標を実行に移せる」：授業の中で立てた目標を、大学生活の中で実行にうつすことができる。</p>						
授業計画	<p>第1回 自立した女性のキャリアデザインとは／初回レビュー</p> <p>第2回 アサーションとアサーション権とは ～自分も相手も尊重する主張方法</p> <p>第3回 考え方をアサーティブにする</p> <p>第4回 積極的にかかわるための聴き方</p> <p>第5回 分かりやすい話し方①</p> <p>第6回 働く女性を取り巻く環境について知る</p> <p>第7回 分かりやすい話し方②</p> <p>第8回 中間レビュー</p> <p>第9回 【ケースワーク】物事を依頼する・断る</p> <p>第10回 【ケースワーク】自分や商品をおすすめする</p> <p>第11回 自分の気持ちをアサーティブに伝える</p> <p>第12回 自分をコントロールする</p> <p>第13回 社会に出るために—マナーと敬語—</p> <p>第14回 【ケースワーク】総合演習</p> <p>第15回 自立した女性を目指して今からやるべきこと</p>						
授業外における学習（準備学習の内容）	<p>・授業で気づいたこと、考えたことを、学生生活で実践していただくことが必要です。実際にやってみてどうだったか、といった視点が次の授業の材料になります。</p>						
授業方法	グループワーク、ケースワークといった演習形式で取り組みます。						
評価基準と評価方法	<p>平常点45%、レポートやワークシート等の課題提出35%、グループワークやプレゼンテーション・ケースワークへの取り組み20%を基準とし、総合的に判断します。</p> <p>① 毎回コミュニケーションシートを記入。（45点満点：テーマは講師が指定） コミュニケーションシートの提出が9回以下の場合は、平常点は0点になります。 また、講義への参加態度（積極性、主体性、協調性など）もここに含みますので、参加態度がよくない場合は減点をします。</p> <p>② 講師が指定するワークシートやレポートを提出。（35点満点） *具体的な課題内容については講座中に発表し、講座終盤に提出していただく予定です。</p> <p>③ グループワークやプレゼンテーション・ケースワークへ取り組み。（20点満点）</p>						
教科書	<p>「COMMUNICATION」(株)ベネッセi-キャリア ※ワーク等で使いますので、毎回必ず持参してください。</p>						

参考書	特になし
-----	------

科目区分	キャリア系列／キャリア・ビジネス教育系列						
科目名	キャリアデザインII						
担当教員	土肥 伊都子・島津 裕子						
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	木曜4	配当学年	1	単位数	2.0
授業のテーマ	「キャリア」とはどのような人生を送りたいか常に考え続けることです。キャリアのスタートラインに立つ大学生のうちに、その基本となる考え方や行動の仕方を学びます。						
授業の概要	<p>3年冬からの本格的な就職活動に臨む前に、社会で求められる基本的スキルを身につけておくことは、より自分に合った進路選択ができる可能性が高まり、また自信にもつながります。</p> <p>キャリアデザインIIでは、ワークやグループディスカッション、プレゼンテーション等を通して、「社会で求められる基本的スキル【コミュニケーション力・アサーション（自分も相手も尊重する主張方法）マナー・敬語】」を修得します。また、これらを大学生活の中で身につけられるように導きます。</p> <p>この講座を受講することにより、</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 社会に出る（就職）ための準備や練習を今のうちから始めることができます。 ② 女性としての生き方を考え、マナーや敬語、コミュニケーションのケースワークを学ぶことで後の就職活動に役立てることができます。 ③ あなた自身の大学生活をより充実させることができます。 						
到達目標	<p>以下3点を目標として設定しています。</p> <p>「社会で求められるコミュニケーション力を知る」： 基本的なマナーや敬語を身につけた上で、相手に配慮をしながら自分の意見をしっかり相手に伝えることができる。</p> <p>「女性としての生き方を学ぶ」： 女性を取り巻く社会や環境の変化を知り、今後、自分はどのようになりたいか考えることができる</p> <p>「目標を実行に移せる」：授業の中で立てた目標を、大学生活の中で実行にうつすことができる。</p>						
授業計画	<p>第1回 自立した女性のキャリアデザインとは／初回レビュー</p> <p>第2回 アサーションとアサーション権とは ～自分も相手も尊重する主張方法</p> <p>第3回 考え方をアサーティブにする</p> <p>第4回 積極的にかかわるための聴き方</p> <p>第5回 分かりやすい話し方①</p> <p>第6回 働く女性を取り巻く環境について知る</p> <p>第7回 分かりやすい話し方②</p> <p>第8回 中間レビュー</p> <p>第9回 【ケースワーク】物事を依頼する・断る</p> <p>第10回 【ケースワーク】自分や商品をおすすめする</p> <p>第11回 自分の気持ちをアサーティブに伝える</p> <p>第12回 自分をコントロールする</p> <p>第13回 社会に出るために—マナーと敬語—</p> <p>第14回 【ケースワーク】総合演習</p> <p>第15回 自立した女性を目指して今からやるべきこと</p>						
授業外における学習（準備学習の内容）	<p>・授業で気づいたこと、考えたことを、学生生活で実践していただくことが必要です。実際にやってみてどうだったか、といった視点が次の授業の材料になります。</p>						
授業方法	グループワーク、ケースワークといった演習形式で取り組みます。						
評価基準と評価方法	<p>平常点45%、レポートやワークシート等の課題提出35%、グループワークやプレゼンテーション・ケースワークへの取り組み20%を基準とし、総合的に判断します。</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 毎回コミュニケーションシートを記入。（45点満点：テーマは講師が指定） コミュニケーションシートの提出が9回以下の場合は、平常点は0点になります。 また、講義への参加態度（積極性、主体性、協調性など）もここに含みますので、参加態度がよくない場合は減点をします。 ② 講師が指定するワークシートやレポートを提出。（35点満点） *具体的な課題内容については講座中に発表し、講座終盤に提出していただく予定です。 ③ グループワークやプレゼンテーション・ケースワークへ取り組み。（20点満点） 						

教科書	「COMMUNICATION」(株)ベネッセi-キャリア ※ワーク等で使いますので、毎回必ず持参してください。
参考書	特になし

科目区分	キャリア系列／キャリア・ビジネス教育系列						
科目名	キャリアデザイン研究						
担当教員	単位認定者：青谷 実知代						
学期	前期／1st semester	曜日・時限	火曜4	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	ゲストスピーカー（現場担当者）から業界・業種の現状を伺い、社会の現場を知ると共に就職活動で活かせる取り組み（志望動機や自己PRを考える）。						
授業の概要	「職業生涯における仕事の経験の連鎖あるいはその蓄積」と定義づけられるキャリアであるが、IT化・グローバル化の進展、産業構造の変化、企業浮沈等、変革が激しい中、キャリアの本質に迫れないことも事実である。そこで、現場で実践を積んでおられる多様な業界・業種から講師をお招きし、広範囲な職業観や勤労観そして問題点を学び、自分自身の成長・発達につなげると共に、「総合知」でキャリアデザインが研究を深めていく。						
到達目標	①職場や地域で活躍する上で必要な知識を身につけることができる。 ②業種と業界の違いを理解し、説明することができる。 ③就職活動で活かせる志望動機や自己PRが書けるようになる。						
授業計画	<p>本講義はそれぞれの講師が下記の講義項目について、1コマずつ担当するオムニバス形式による授業です。この科目はキャリア教育センターが開講するもので、学生に「各業界の現状と今後の展望」を紹介し、「各業界に必要な資質とその涵養」について理解させることを目的とします。</p> <p>第1回 4月13日 業界・業種研究を深めキャリアデザインを考える 青谷実知代 第2回 4月20日 【宿泊業】(株)神戸ポートピアホテル 第3回 4月27日 【社会福祉業】産経新聞厚生文化事業団 第4回 5月11日 【情報通信業】(株)エヌゲージ 第5回 5月18日 【旅行業界】(株)日本旅行 第6回 5月25日 【フライダル業】高見(株) 第7回 6月1日 【流通・小売業】(株)阪急阪神百貨店 第8回 6月8日 【卸売・小売業(食品商社)】(株)AMADEUS 第9回 6月15日 【小売業(カーティン)】神戸トヨペット(株) 第10回 6月22日 【小売業(化粧品)】花王カスタマーマーケティング(株) 第11回 6月29日 【製造業】(株)ワコール 第12回 7月6日 【運輸業】西日本旅客鉄道(株) 第13回 7月13日 【卸売・小売業】帝人フロンティア(株) 第14回 7月20日 【金融・保険業】(株)みずほフィナンシャルグループ 第15回 7月27日 業界の様々な取り組みとキャリアデザイン(総まとめ) 青谷実知代</p> <p>※第2回目～第14回目は昨年度の実績です。今年度のゲストスピーカーについては決定次第ポータルからお知らせ(掲示)をします。</p>						
授業外における学習(準備学習の内容)	授業前学習：日頃から新聞や情報誌を読み、関心ある業界の傾向をつかむ。 授業後学習：学んだ企業の会社概況などを読み、企業の理解を深める。						
授業方法	オムニバス形式の講義						
評価基準と評価方法	授業毎のレポート(60%)、課題レポート(2回)(40%)						
教科書	なし(必要に応じて資料を配布する)						
参考書	授業中に紹介する。						

科目区分	キャリア系列／キャリア・ビジネス教育系列						
科目名	キャリアデザイン研究						
担当教員	単位認定者：青谷 実知代						
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	火曜4	配当学年	3	単位数	2.0
授業のテーマ	ゲストスピーカー（現場担当者）から業界・業種の現状を伺い、社会の現場を知ると共に就職活動で活かせる取り組み（志望動機や自己PRを考える）。						
授業の概要	「職業生涯における仕事の経験の連鎖あるいはその蓄積」と定義づけられるキャリアであるが、IT化・グローバル化の進展、産業構造の変化、企業浮沈等、変革が激しい中、キャリアの本質に迫れないことも事実である。そこで、現場で実践を積んでおられる多様な業界・業種から講師をお招きし、広範囲な職業観や勤労観そして問題点を学び、自分自身の成長・発達につなげると共に、「総合知」でキャリアデザインが研究を深めていく。						
到達目標	①職場や地域で活躍する上で必要な知識を身につけることができる。 ②業種と業界の違いを理解し、説明することができる。 ③就職活動で活かせる志望動機や自己PRが書けるようになる。						
授業計画	<p>本講義はそれぞれの講師が下記の講義項目について、1コマずつ担当するオムニバス形式による授業です。この科目はキャリア教育センターが開講するもので、学生に「各業界の現状と今後の展望」を紹介し、「各業界に必要な資質とその涵養」について理解させることを目的とします。</p> <p>第1回 9月27日 業界・業種研究を深めキャリアデザインを考える 青谷実知代 第2回 10月8日(2限) 【小売業界・カーディーラー】神戸トヨペット(株) 第3回 10月12日 【製造業界・衣料】(株)フコール 第4回 10月19日 【旅行業界】(株)日本旅行 第5回 10月26日 【小売業界・アパレル通販】(株)L a L a L e i 第6回 11月2日 【流通業界】(株)阪急阪神百貨店 第7回 11月9日 【フライダル業界】高見(株) 第8回 11月16日 【小売業界・化粧品販売】花王カスタマーマーケティング(株) 第9回 11月30日 【卸売・小売業界・食品商社】(株)AMADEUS 第10回 12月7日 【運輸業界・航空】(株)J A L スカイ大阪 第11回 12月14日 【運輸業界・鉄道】西日本旅客鉄道(株) 第12回 12月21日 【卸売・小売業界 繊維商社】帝人フロンティア(株) 第13回 1月11日 【社会福祉業界】産経新聞厚生文化事業団 第14回 1月18日 【銀行業界】(株)みずほフィナンシャルグループ 第15回 1月25日 業界の様々な取り組みとキャリアデザイン（総まとめ）青谷実知代</p> <p>※第2回目～第14回目は昨年度の実績です。今年度のゲストスピーカーについては決定次第ポータルからお知らせ（掲示）をします。</p>						
授業外における学習（準備学習の内容）	授業前学習：日頃から新聞や情報誌を読み、関心ある業界の傾向をつかむ。 授業後学習：学んだ企業の会社概況などを読み、企業の理解を深める。						
授業方法	オムニバス形式の講義						
評価基準と評価方法	授業毎のレポート（60%）、課題レポート（2回）（40%）						
教科書	なし（必要に応じて資料を配布する）						
参考書	授業中に紹介する。						

科目区分	キャリア系列／キャリア・ビジネス教育系列						
科目名	企業・職種・業界の基礎知識／企業の基礎知識						
担当教員	倉島 進・植田 麻衣子						
学期	前期／1st semester	曜日・時限	月曜3	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	経済の仕組みと企業の仕組みを理解する						
授業の概要	<p>社会人としての最低限の知識から就職活動の際に知っている知識まで厳選して講義します。『社会の仕組み』では、日本経済の仕組みをお金の存在から、政府、企業、個人の役割まで解説します。経済用語は、無理に暗記するのではなく、自然に体得できる様、新聞から最近のニュースを取り上げ、関連する経済・企業用語を解説します。</p> <p>『企業の仕組み』では、株式会社の仕組みから、会社組織、業務内容、業務の流れ、を通じて概略の理解を深めます。就職から退職までの流れや、労働者の権利、企業の社会的責任についても説明します。</p>						
到達目標	日経新聞や日ごろの経済ニュースの内容が理解できる程度の知識の習得を行う。特に、経済、問題についての理解を深める						
授業計画	<p>1 オリエンテーション：講義の進め方や、経済、社会、企業の関係について説明します。</p> <p>2 社会の仕組み（お金に関する知識）：経済を動かす仕組みとしてお金の存在に注目します。</p> <p>3 社会の仕組み（お金と経済の知識①）：お金によって物価が変動したり為替が変動したりする仕組みを考えます。</p> <p>4 社会の仕組み（お金と経済の知識②）：GDPの仕組みと世界の中における日本の経済的役割を考えます。</p> <p>5 社会の仕組み（政府の収入、支出～税金のしくみ）：日本政府の財政と税金の仕組みを考えます。</p> <p>6 企業の仕組み（会社の業務や社内の取組について）：社会の一員として社会（顧客）に対する働きかけのビデオをみて企業の役割を考えます。</p> <p>7 企業の仕組み（さまざまな職種の役割）： 前回のビデオの内容を受けて、企業内での仕事の分担（職種）について考えます。</p> <p>8 社会の仕組み（企業、業種について）：さまざまな業種/業界について社会での役割を検討します。</p> <p>9 企業の仕組み（株式のしくみ）：株式会社の仕組みにである株主について勉強します。</p> <p>10 企業の仕組み（株式会社のしくみ）：今までのまとめとして、経済の動きと株式会社の役割のビデオを見ます。</p> <p>11 企業の仕組み（社会人として働くための基礎知識）：給与や、雇用についての社会のルールについて説明します。</p> <p>12 企業の仕組み（ビジネスゲームの解説）：次の回からはじまるビジネスゲームの解説をします。</p> <p>13 企業の仕組み（ビジネスゲームの実践前半）：ビジネスゲームをします。</p> <p>14 企業の仕組み（ビジネスゲームの実践後半）：ビジネスゲームをします。</p> <p>15 総まとめ：企業の社会的責任とは何なのか？について、考えていきます。</p> <p>講義形式：1・9・11・12は講義形式、2～5・7・8・15はディスカッション形式、6・10はビデオ鑑賞、13・14は実習形式</p> <p>担当教員：1～11・15は倉島進、12～14は倉島進・植田麻衣子</p> <p>今後の経済情勢の変化によっては、講義内容の一部を変更することがあります。 12、13、14回の授業は、適宜織り込んでいきます。（授業の順序が変わります）</p>						
授業外における学習（準備学習の内容）	日ごろから、日経新聞等のニュースに注目しておいてください。						
授業方法	<p>1クラス30名に限定し、5名×6チームに構成。</p> <p>毎回、次回のテーマについて4つの質問を提供します。（マナパでも公表）</p> <p>このテーマにつき一言を考えて来てもらいます。</p> <p>1テーマのなかから2つから3つ程度とりあげ授業中にその内容について発表してもらいます（質問には正解はありません。皆さんがどのように考えたかが重要です。思うことをグループで相談して、発表してもらいます。）</p> <p>授業の最後にその日のテーマについてまとめの授業をします。</p> <p>参加型の授業を目指していますので、授業中の発言に対して、加点します。どんどん発言してください。（正解不正解は関係ありません）</p>						
評価基準と評価方法	<p>評価は授業中の発表、レポートを加味して評価する。</p> <p>平常点（授業中の発表及び授業後の小レポート）50%、期末のレポート50%</p>						

教科書	特になし
参考書	初回授業時に発表する

科目区分	キャリア系列／キャリア・ビジネス教育系列						
科目名	企業・職種・業界の基礎知識／企業の基礎知識						
担当教員	倉島 進・植田 麻衣子						
学期	前期／1st semester	曜日・時限	火曜2	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	経済の仕組みと企業の仕組みを理解する						
授業の概要	<p>社会人としての最低限の知識から就職活動の際に知っている知識まで厳選して講義します。『社会の仕組み』では、日本経済の仕組みをお金の存在から、政府、企業、個人の役割まで解説します。経済用語は、無理に暗記するのではなく、自然に体得できる様、新聞から最近のニュースを取り上げ、関連する経済・企業用語を解説します。</p> <p>『企業の仕組み』では、株式会社の仕組みから、会社組織、業務内容、業務の流れ、を通じて概略の理解を深めます。就職から退職までの流れや、労働者の権利、企業の社会的責任についても説明します。</p>						
到達目標	日経新聞や日ごろの経済ニュースの内容が理解できる程度の知識の習得を行う。特に、経済、問題についての理解を深める						
授業計画	<p>1 オリエンテーション：講義の進め方や、経済、社会、企業の関係について説明します。</p> <p>2 社会の仕組み（お金に関する知識）：経済を動かす仕組みとしてお金の存在に注目します。</p> <p>3 社会の仕組み（お金と経済の知識①）：お金によって物価が変動したり為替が変動したりする仕組みを考えます。</p> <p>4 社会の仕組み（お金と経済の知識②）：GDPの仕組みと世界の中における日本の経済的役割を考えます。</p> <p>5 社会の仕組み（政府の収入、支出～税金のしくみ）：日本政府の財政と税金の仕組みを考えます。</p> <p>6 企業の仕組み（会社の業務や社内の取組について）：社会の一員として社会（顧客）に対する働きかけのビデオをみて企業の役割を考えます。</p> <p>7 企業の仕組み（さまざまな職種の役割）： 前回のビデオの内容を受けて、企業内での仕事の分担（職種）について考えます。</p> <p>8 社会の仕組み（企業、業種について）：さまざまな業種/業界について社会での役割を検討します。</p> <p>9 企業の仕組み（株式のしくみ）：株式会社の仕組みにである株主について勉強します。</p> <p>10 企業の仕組み（株式会社のしくみ）：今までのまとめとして、経済の動きと株式会社の役割のビデオを見ます。</p> <p>11 企業の仕組み（社会人として働くための基礎知識）：給与や、雇用についての社会のルールについて説明します。</p> <p>12 企業の仕組み（ビジネスゲームの解説）：次の回からはじまるビジネスゲームの解説をします。</p> <p>13 企業の仕組み（ビジネスゲームの実践前半）：ビジネスゲームをします。</p> <p>14 企業の仕組み（ビジネスゲームの実践後半）：ビジネスゲームをします。</p> <p>15 総まとめ：企業の社会的責任とは何なのか？について、考えていきます。</p> <p>講義形式：1・9・11・12は講義形式、2～5・7・8・15はディスカッション形式、6・10はビデオ鑑賞、13・14は実習形式</p> <p>担当教員：1～11と15は植田麻衣子、12～14は倉島進・植田麻衣子</p> <p>今後の経済情勢の変化によっては、講義内容の一部を変更することがあります。 12、13、14回の授業は、適宜織り込んでいきます。（授業の順序が変わります）</p>						
授業外における学習（準備学習の内容）	日ごろから、日経新聞等のニュースに注目しておいてください。						
授業方法	<p>1クラス30名に限定し、5名×6チームに構成。</p> <p>毎回、次回のテーマについて4つの質問を提供します。（マナパでも公表）このテーマにつき一言を考えて来てもらいます。</p> <p>1テーマのなかから2つから3つ程度とりあげ授業中にその内容について発表してもらいます（質問には正解はありません。皆さんがどのように考えたかが重要です。思うことをグループで相談して、発表してもらいます。）</p> <p>授業の最後にその日のテーマについてまとめの授業をします。</p> <p>参加型の授業を目指していますので、授業中の発言に対して、加点します。どんどん発言してください。（正解不正解は関係ありません）</p>						
評価基準と評価方法	<p>評価は、授業中の発表、レポートを加味して評価する。</p> <p>平常点（授業中の発表・授業後の小レポート）50%、期末のレポート50%</p>						

教科書	特になし
参考書	初回授業時に発表する

科目区分	キャリア系列／キャリア・ビジネス教育系列						
科目名	企業・職種・業界の基礎知識／企業の基礎知識						
担当教員	倉島 進・植田 麻衣子						
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	月曜3	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	経済の仕組みと企業の仕組みを理解する						
授業の概要	<p>社会人としての最低限の知識から就職活動の際に知っている知識まで厳選して講義します。『社会の仕組み』では、日本経済の仕組みをお金の存在から、政府、企業、個人の役割まで解説します。経済用語は、無理に暗記するのではなく、自然に体得できる様、新聞から最新のニュースを取り上げ、関連する経済・企業用語を解説します。</p> <p>『企業の仕組み』では、株式会社の仕組みから、会社組織、業務内容、業務の流れ、を通じて概略の理解を深めます。就職から退職までの流れや、労働者の権利、企業の社会的責任についても説明します。</p>						
到達目標	日経新聞や日ごろの経済ニュースの内容が理解できる程度の知識の習得を行う。特に、経済、問題についての理解を深める						
授業計画	<p>1 オリエンテーション：講義の進め方や、経済、社会、企業の関係について説明します。</p> <p>2 社会の仕組み（お金に関する知識）：経済を動かす仕組みとしてお金の存在に注目します。</p> <p>3 社会の仕組み（お金と経済の知識①）：お金によって物価が変動したり為替が変動したりする仕組みを考えます。</p> <p>4 社会の仕組み（お金と経済の知識②）：GDPの仕組みと世界の中における日本の経済的役割を考えます。</p> <p>5 社会の仕組み（政府の収入、支出～税金のしくみ）：日本政府の財政と税金の仕組みを考えます。</p> <p>6 企業の仕組み（会社の業務や社内の取組について）：社会の一員として社会（顧客）に対する働きかけのビデオをみて企業の役割を考えます。</p> <p>7 企業の仕組み（さまざまな職種の役割）： 前回のビデオの内容を受けて、企業内での仕事の分担（職種）について考えます。</p> <p>8 社会の仕組み（企業、業種について）：さまざまな業種/業界について社会での役割を検討します。</p> <p>9 企業の仕組み（株式のしくみ）：株式会社の仕組みにである株主について勉強します。</p> <p>10 企業の仕組み（株式会社のしくみ）：今までのまとめとして、経済の動きと株式会社の役割のビデオを見ます。</p> <p>11 企業の仕組み（社会人として働くための基礎知識）：給与や、雇用についての社会のルールについて説明します。</p> <p>12 企業の仕組み（ビジネスゲームの解説）：次の回からはじまるビジネスゲームの解説をします。</p> <p>13 企業の仕組み（ビジネスゲームの実践前半）：ビジネスゲームをします。</p> <p>14 企業の仕組み（ビジネスゲームの実践後半）：ビジネスゲームをします。</p> <p>15 総まとめ：企業の社会的責任とは何なのか？について、考えていきます。</p> <p>講義形式：1・9・11・12は講義形式、2～5・7・8・15はディスカッション形式、6・10はビデオ鑑賞、13・14は実習形式</p> <p>担当教員：1～11・15は倉島進、12～14は倉島進・植田麻衣子</p> <p>今後の経済情勢の変化によっては、講義内容の一部を変更することがあります。 12、13、14回の授業は、適宜織り込んでいきます。（授業の順序が変わります）</p>						
授業外における学習（準備学習の内容）	日ごろから、日経新聞等のニュースに注目しておいてください。						
授業方法	<p>1クラス30名に限定し、5名×6チームに構成。</p> <p>毎回、次回のテーマについて4つの質問を提供します。（マナパでも公表）このテーマにつき一言を考えて来てもらいます。</p> <p>1テーマのなかから2つから3つ程度とりあげ授業中にその内容について発表してもらいます（質問には正解はありません。皆さんがどのように考えたかが重要です。思うことをグループで相談して、発表してもらいます。）</p> <p>授業の最後にその日のテーマについてまとめの授業をします。</p> <p>参加型の授業を目指していますので、授業中の発言に対して、加点します。どんどん発言してください。（正解不正解は関係ありません）</p>						
評価基準と評価方法	<p>評価は授業中の発表、レポートを加味して評価する。</p> <p>平常点（授業中の発表及び授業後の小レポート）50%、期末のレポート50%</p>						

教科書	特になし
参考書	初回授業時に発表する

科目区分	キャリア系列／キャリア・ビジネス教育系列						
科目名	企業・職種・業界の基礎知識／企業の基礎知識						
担当教員	倉島 進・植田 麻衣子						
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	火曜3	配当学年	2	単位数	2.0
授業のテーマ	経済の仕組みと企業の仕組みを理解する						
授業の概要	<p>社会人としての最低限の知識から就職活動の際に知っている知識まで厳選して講義します。『社会の仕組み』では、日本経済の仕組みをお金の存在から、政府、企業、個人の役割まで解説します。経済用語は、無理に暗記するのではなく、自然に体得できる様、新聞から最新のニュースを取り上げ、関連する経済・企業用語を解説します。</p> <p>『企業の仕組み』では、株式会社の仕組みから、会社組織、業務内容、業務の流れ、を通じて概略の理解を深めます。就職から退職までの流れや、労働者の権利、企業の社会的責任についても説明します。</p>						
到達目標	日経新聞や日ごろの経済ニュースの内容が理解できる程度の知識の習得を行う。特に、経済、問題についての理解を深める						
授業計画	<p>1 オリエンテーション：講義の進め方や、経済、社会、企業の関係について説明します。</p> <p>2 社会の仕組み（お金に関する知識）：経済を動かす仕組みとしてお金の存在に注目します。</p> <p>3 社会の仕組み（お金と経済の知識①）：お金によって物価が変動したり為替が変動したりする仕組みを考えます。</p> <p>4 社会の仕組み（お金と経済の知識②）：GDPの仕組みと世界の中における日本の経済的役割を考えます。</p> <p>5 社会の仕組み（政府の収入、支出～税金のしくみ）：日本政府の財政と税金の仕組みを考えます。</p> <p>6 企業の仕組み（会社の業務や社内の取組について）：社会の一員として社会（顧客）に対する働きかけのビデオをみて企業の役割を考えます。</p> <p>7 企業の仕組み（さまざまな職種の役割）： 前回のビデオの内容を受けて、企業内での仕事の分担（職種）について考えます。</p> <p>8 社会の仕組み（企業、業種について）：さまざまな業種/業界について社会での役割を検討します。</p> <p>9 企業の仕組み（株式のしくみ）：株式会社の仕組みにである株主について勉強します。</p> <p>10 企業の仕組み（株式会社のしくみ）：今までのまとめとして、経済の動きと株式会社の役割のビデオを見ます。</p> <p>11 企業の仕組み（社会人として働くための基礎知識）：給与や、雇用についての社会のルールについて説明します。</p> <p>12 企業の仕組み（ビジネスゲームの解説）：次の回からはじまるビジネスゲームの解説をします。</p> <p>13 企業の仕組み（ビジネスゲームの実践前半）：ビジネスゲームをします。</p> <p>14 企業の仕組み（ビジネスゲームの実践後半）：ビジネスゲームをします。</p> <p>15 総まとめ：企業の社会的責任とは何なのか？について、考えていきます。</p> <p>講義形式：1・9・11・12は講義形式、2～5・7・8・15はディスカッション形式、6・10はビデオ鑑賞、13・14は実習形式</p> <p>担当教員：1～11と15は植田麻衣子、12～14は倉島進・植田麻衣子</p> <p>今後の経済情勢の変化によっては、講義内容の一部を変更することがあります。 12、13、14回の授業は、適宜織り込んでいきます。（授業の順序が変わります）</p>						
授業外における学習（準備学習の内容）	日ごろから、日経新聞等のニュースに注目しておいてください。						
授業方法	<p>1クラス30名に限定し、5名×6チームに構成。</p> <p>毎回、次回のテーマについて4つの質問を提供します。（マナパでも公表）このテーマにつき一言を考えて来てもらいます。</p> <p>1テーマのなかから2つから3つ程度とりあげ授業中にその内容について発表してもらいます（質問には正解はありません。皆さんがどのように考えたかが重要です。思うことをグループで相談して、発表してもらいます。）</p> <p>授業の最後にその日のテーマについてまとめの授業をします。</p> <p>参加型の授業を目指していますので、授業中の発言に対して、加点します。どんどん発言してください。（正解不正解は関係ありません）</p>						
評価基準と評価方法	<p>評価は、授業中の発表、レポートを加味して評価する。</p> <p>平常点（授業中の発表・授業後の小レポート）50%、期末のレポート50%</p>						

教科書	特になし
参考書	初回授業時に発表する

科目区分	キャリア系列／キャリア・ビジネス教育系列						
科目名	ファイナンシャル・プランニング／金融リテラシー						
担当教員	村田 正一						
学期	前期／1st semester	曜日・時限	火曜3	配当学年	2～3	単位数	2.0
授業のテーマ	将来のライフプランを作成し、それに連動する収支・支出計画を考察する。FP技能士3級レベルの社会保険、年金制度、生命保険、資産運用、税等、お金に関する知識を習得する。						
授業の概要	お金に関する知識は、これからの人生で非常に重要なテーマになります。就職して初めて貰う給料に始まり、自分を守ってくれる社会保険や年金制度、生命保険、預貯金や株式への投資、人生の3大資金といわれる子供教育費、住宅の購入、老後の資金計画、さらには次世代への財産の移管である贈与、相続など一生関わりのあるものとなります。この授業では、これらの知識を幅広く知るだけでなく、活用することによって、夢のある人生、目的のある人生を送ってもらうことを目的とします。						
到達目標	FP技能士3級レベルの知識を習得し、ライフプラン実現のための資金計画をどのように立てていけばいいのか、様々なケースを想定し具体的に立案することができる。						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション・・・授業の概要説明 2. 【まもる】社会保険の知識その1・・・医療、介護、労働保険について理解する 3. 【まもる】社会保険の知識その2・・・年金制度について理解する 4. 【しる】ライフイベントを知る・・・将来発生する様々な出来事と、どれくらいのお金がかかるかを知る 5. 【しる】ライフプランニングその1（実習）・・・グループでひとつの家庭のライフイベントを考える 6. 【しる】ライフプランニングその2（実習）・・・グループで決定した家庭のライフプランニング表を作成 7. 【しる】ライフプランニングその3（発表）・・・グループ毎に発表し、何故そうなったか考察する 8. 【まもる】リスクマネジメント（生命保険の知識）・・・生命保険のしくみを理解する 9. 【まもる】リスクマネジメント（損害保険の知識）・・・損害保険のしくみを理解する 10. 【ふやす】金融商品のしくみ（各論）・・・預貯金、債券、株式について理解する 11. 【ふやす】金融商品のしくみ（総論）・・・リスクとリターン、資産運用方法を学ぶ 12. 【おさめる】税金の知識・・・所得税のしくみを中心に税金の知識を習得する 13. 【つかう】不動産の知識・・・土地、建物の購入、不動産の関する法律を理解する 14. 【のこす】相続に関する知識・・・相続に関する法律上知っておくべき知識や税金について理解する 15. まとめと試験・・・FP3級レベルの試験と評価 						
授業外における学習（準備学習の内容）	金融に関する用語の一部には難解なことばもあります。日頃から新聞、テレビ等で経済に関する記事やニュースに興味を持って接してください（日経平均株価、為替レート、社会保険、税金の情報など）。						
授業方法	講義方式、グループワークを交え、テキストにもどづいて授業を行います。						
評価基準と評価方法	試験成績、課題提出やレポートと授業に臨む姿勢を総合的に評価します。 割合は、試験50%、課題、レポート提出10%、授業に臨む姿勢40%						
教科書	なし						
参考書	第1回の講義で紹介します。						

科目区分	キャリア系列／キャリア・ビジネス教育系列						
科目名	ファイナンシャル・プランニング／金融リテラシー						
担当教員	村田 正一						
学期	前期／1st semester	曜日・時限	火曜4	配当学年	2～3	単位数	2.0
授業のテーマ	将来のライフプランを作成し、それに連動する収支・支出計画を考察する。FP技能士3級レベルの社会保険、年金制度、生命保険、資産運用、税等、お金に関する知識を習得する。						
授業の概要	お金に関する知識は、これからの人生で非常に重要なテーマになります。就職して初めて貰う給料に始まり、自分を守ってくれる社会保険や年金制度、生命保険、預貯金や株式への投資、人生の3大資金といわれる子供教育費、住宅の購入、老後の資金計画、さらには次世代への財産の移管である贈与、相続など一生関わりのあるものとなります。この授業では、これらの知識を幅広く知るだけでなく、活用することによって、夢のある人生、目的のある人生を送ってもらうことを目的とします。						
到達目標	FP技能士3級レベルの知識を習得し、ライフプラン実現のための資金計画をどのように立てていけばいいのか、様々なケースを想定し具体的に立案することができる。						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション・・・授業の概要説明 2. 【まもる】社会保険の知識その1・・・医療、介護、労働保険について理解する 3. 【まもる】社会保険の知識その2・・・年金制度について理解する 4. 【しる】ライフイベントを知る・・・将来発生する様々な出来事と、どれくらいのお金がかかるかを知る 5. 【しる】ライフプランニングその1（実習）・・・グループでひとつの家庭のライフイベントを考える 6. 【しる】ライフプランニングその2（実習）・・・グループで決定した家庭のライフプランニング表を作成 7. 【しる】ライフプランニングその3（発表）・・・グループ毎に発表し、何故そうなったか考察する 8. 【まもる】リスクマネジメント（生命保険の知識）・・・生命保険のしくみを理解する 9. 【まもる】リスクマネジメント（損害保険の知識）・・・損害保険のしくみを理解する 10. 【ふやす】金融商品のしくみ（各論）・・・預貯金、債券、株式について理解する 11. 【ふやす】金融商品のしくみ（総論）・・・リスクとリターン、資産運用方法を学ぶ 12. 【おさめる】税金の知識・・・所得税のしくみを中心に税金の知識を習得する 13. 【つかう】不動産の知識・・・土地、建物の購入、不動産の関する法律を理解する 14. 【のこす】相続に関する知識・・・相続に関する法律上知っておくべき知識や税金について理解する 15. まとめと試験・・・FP3級レベルの試験と評価 						
授業外における学習（準備学習の内容）	金融に関する用語の一部には難解なことばもあります。日頃から新聞、テレビ等で経済に関する記事やニュースに興味を持って接してください（日経平均株価、為替レート、社会保険、税金の情報など）。						
授業方法	講義方式、グループワークを交え、テキストにもどづいて授業を行います。						
評価基準と評価方法	試験成績、課題提出やレポートと授業に臨む姿勢を総合的に評価します。割合は、試験50%、課題、レポート提出10%、授業に臨む姿勢40%						
教科書	なし						
参考書	第1回の講義で紹介します。						

科目区分	キャリア系列／キャリア・ビジネス教育系列						
科目名	ファイナンシャル・プランニング／金融リテラシー						
担当教員	村田 正一						
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	火曜3	配当学年	2～3	単位数	2.0
授業のテーマ	将来のライフプランを作成し、それに連動する収支・支出計画を考察する。FP技能士3級レベルの社会保険、年金制度、生命保険、資産運用、税等、お金に関する知識を習得する。						
授業の概要	お金に関する知識は、これからの人生で非常に重要なテーマになります。就職して初めて貰う給料に始まり、自分を守ってくれる社会保険や年金制度、生命保険、預貯金や株式への投資、人生の3大資金といわれる子供教育費、住宅の購入、老後の資金計画、さらには次世代への財産の移管である贈与、相続など一生関わりのあるものとなります。この授業では、これらの知識を幅広く知るだけでなく、活用することによって、夢のある人生、目的のある人生を送ってもらうことを目的とします。						
到達目標	FP技能士3級レベルの知識を習得し、ライフプラン実現のための資金計画をどのように立てていけばいいのか、様々なケースを想定し具体的に立案することができる。						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション・・・授業の概要説明 2. 【まもる】社会保険の知識その1・・・医療、介護、労働保険について理解する 3. 【まもる】社会保険の知識その2・・・年金制度について理解する 4. 【しる】ライフイベントを知る・・・将来発生する様々な出来事と、どれくらいのお金がかかるかを知る 5. 【しる】ライフプランニングその1（実習）・・・グループでひとつの家庭のライフイベントを考える 6. 【しる】ライフプランニングその2（実習）・・・グループで決定した家庭のライフプランニング表を作成 7. 【しる】ライフプランニングその3（発表）・・・グループ毎に発表し、何故そうなったか考察する 8. 【まもる】リスクマネジメント（生命保険の知識）・・・生命保険のしくみを理解する 9. 【まもる】リスクマネジメント（損害保険の知識）・・・損害保険のしくみを理解する 10. 【ふやす】金融商品のしくみ（各論）・・・預貯金、債券、株式について理解する 11. 【ふやす】金融商品のしくみ（総論）・・・リスクとリターン、資産運用方法を学ぶ 12. 【おさめる】税金の知識・・・所得税のしくみを中心に税金の知識を習得する 13. 【つかう】不動産の知識・・・土地、建物の購入、不動産の関する法律を理解する 14. 【のこす】相続に関する知識・・・相続に関する法律上知っておくべき知識や税金について理解する 15. まとめと試験・・・FP3級レベルの試験と評価 						
授業外における学習（準備学習の内容）	金融に関する用語の一部には難解なことばもあります。日頃から新聞、テレビ等で経済に関する記事やニュースに興味を持って接してください（日経平均株価、為替レート、社会保険、税金の情報など）。						
授業方法	講義方式、グループワークを交え、テキストにもどづいて授業を行います。						
評価基準と評価方法	試験成績、課題提出やレポートと授業に臨む姿勢を総合的に評価します。割合は、試験50%、課題、レポート提出10%、授業に臨む姿勢40%						
教科書	なし						
参考書	第1回の講義で紹介します。						

科目区分	キャリア系列／キャリア・ビジネス教育系列						
科目名	ホスピタリティ・マネジメント						
担当教員	土肥 伊都子・鷺北 千草						
学期	前期／1st semester	曜日・時限	月曜4	配当学年	1～2	単位数	2.0
授業のテーマ	ホスピタリティの探求と発揮						
授業の概要	ホスピタリティを様々な角度から取り上げ、これからの産業におけるホスピタリティの重要性を理解し行動につなげる。 現代は様々な場面でホスピタリティの重要性が高まっている。この授業では、エアライン、ホテル、飲食業のサービスや仕事などを題材に取り上げながら、ホスピタリティが生み出す価値の重要性について広く考察していく。また、授業を通じて受講生がホスピタリティの概念について考え、創造できるようになることを目指す。						
到達目標	1. 現代の日本社会において、ホスピタリティの意味と果たす役割を理解することができる。 2. ホスピタリティが生み出す要素を理解できる。 3. ホスピタリティの概念を理解し、実際に発揮できる。						
授業計画	第1回 オリエンテーション：授業履修にあたっての説明 概要説明 第2回 ホスピタリティの原義：ホスピタリティの語源 ホスピタリティとサービスの比較 第3回 ホスピタリティと人間：ホスピタリティの起源 他者理解 第4回 ホスピタリティと文化：ホスピタリティの文化的差異 地域のホスピタリティ 第5回 ホスピタリティと産業Ⅰ：日本のおもてなしを考える（グループディスカッション実施） 第6回 ホスピタリティと産業Ⅱ：エアラインにおけるホスピタリティ～ANAを例に～ 第7回 ホスピタリティとチームワーク：チームワークの重要性 チームの力と個人の力 第8回 ホスピタリティを伝える基本Ⅰ：ホスピタリティとコミュニケーションの関係 第9回 ホスピタリティを伝える基本Ⅱ：異文化コミュニケーションを考える 第10回 言葉で表すホスピタリティ：敬語表現の基礎 社会で活用できる表現 第11回 表現力Ⅰ：非言語コミュニケーションの重要性 表情が与える印象とは 第12回 表現力Ⅱ：ホスピタリティを伝える行動様式 立ち居振る舞い 第13回 事例研究Ⅰ：リッツカールトンに学ぶホスピタリティ 第14回 事例研究Ⅱ：東京ディズニーリゾートのホスピタリティ 第15回 まとめ：全体のまとめと振り返り レポート作成						
授業外における学習（準備学習の内容）	授業後学習：配付資料を読み、復習すること。 最終的には理解した内容を実生活に取り入れることに繋げるため、毎回の授業を理解し実際に行動化することが大切である。						
授業方法	パワーポイントを使用し講義を行う。 また、授業後半部分はグループワークや実習を行うため各人の積極的な授業参加を期待する。						
評価基準と評価方法	・小レポート20%、第15回まとめレポート50%、授業参加態度・出席30%とし、総合的に判断し評価する。 *欠席は5回までとし（遅刻含む）、それ以上は失格となるため各自で留意しておくこと。 *詳細は第1回オリエンテーションで説明するので必ず出席し確認すること。						
教科書	テキストは使用しない。毎回レジュメを配付するので各自でファイリングし授業に持参すること。						
参考書							

科目区分	キャリア系列／キャリア・ビジネス教育系列						
科目名	ホスピタリティ・マネジメント						
担当教員	土肥 伊都子・鷺北 千草						
学期	前期／1st semester	曜日・時限	木曜4	配当学年	1～2	単位数	2.0
授業のテーマ	ホスピタリティの探求と発揮						
授業の概要	ホスピタリティを様々な角度から取り上げ、これからの産業におけるホスピタリティの重要性を理解し行動につなげる。 現代は様々な場面でホスピタリティの重要性が高まっている。この授業では、エアライン、ホテル、飲食業のサービスや仕事などを題材に取り上げながら、ホスピタリティが生み出す価値の重要性について広く考察していく。また、授業を通じて受講生がホスピタリティの概念について考え、創造できるようになることを目指す。						
到達目標	1. 現代の日本社会において、ホスピタリティの意味と果たす役割を理解することができる。 2. ホスピタリティが生み出す要素を理解できる。 3. ホスピタリティの概念を理解し、実際に発揮できる。						
授業計画	第1回 オリエンテーション：授業履修にあたっての説明 概要説明 第2回 ホスピタリティの原義：ホスピタリティの語源 ホスピタリティとサービスの比較 第3回 ホスピタリティと人間：ホスピタリティの起源 他者理解 第4回 ホスピタリティと文化：ホスピタリティの文化的差異 地域のホスピタリティ 第5回 ホスピタリティと産業Ⅰ：日本のおもてなしを考える（グループディスカッション実施） 第6回 ホスピタリティと産業Ⅱ：エアラインにおけるホスピタリティ～ANAを例に～ 第7回 ホスピタリティとチームワーク：チームワークの重要性 チームの力と個人の力 第8回 ホスピタリティを伝える基本Ⅰ：ホスピタリティとコミュニケーションの関係 第9回 ホスピタリティを伝える基本Ⅱ：異文化コミュニケーションを考える 第10回 言葉で表すホスピタリティ：敬語表現の基礎 社会で活用できる表現 第11回 表現力Ⅰ：非言語コミュニケーションの重要性 表情が与える印象とは 第12回 表現力Ⅱ：ホスピタリティを伝える行動様式 立ち居振る舞い 第13回 事例研究Ⅰ：リッツカールトンに学ぶホスピタリティ 第14回 事例研究Ⅱ：東京ディズニーリゾートのホスピタリティ 第15回 まとめ：全体のまとめと振り返り レポート作成						
授業外における学習（準備学習の内容）	授業後学習：配付資料を読み、復習すること。 最終的には理解した内容を実生活に取り入れることに繋げるため、毎回の授業を理解し実際に行動化することが大切である。						
授業方法	パワーポイントを使用し講義を行う。 また、授業後半部分はグループワークや実習を行うため各人の積極的な授業参加を期待する。						
評価基準と評価方法	・小レポート20%、第15回まとめレポート50%、授業参加態度・出席30%とし、総合的に判断し評価する。 *欠席は5回までとし（遅刻含む）、それ以上は失格となるため各自で留意しておくこと。 *詳細は第1回オリエンテーションで説明するので必ず出席し確認すること。						
教科書	テキストは使用しない。毎回レジュメを配付するので各自でファイリングし授業に持参すること。						
参考書							

科目区分	キャリア系列／キャリア・ビジネス教育系列						
科目名	ホスピタリティ・マネジメント						
担当教員	土肥 伊都子・鷺北 千草						
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	木曜4	配当学年	1～2	単位数	2.0
授業のテーマ	ホスピタリティの探求と発揮						
授業の概要	ホスピタリティを様々な角度から取り上げ、これからの産業におけるホスピタリティの重要性を理解し行動につなげる。 現代は様々な場面でホスピタリティの重要性が高まっている。この授業では、エアライン、ホテル、飲食業のサービスや仕事などを題材に取り上げながら、ホスピタリティが生み出す価値の重要性について広く考察していく。また、授業を通じて受講生がホスピタリティの概念について考え、創造できるようになることを目指す。						
到達目標	1. 現代の日本社会において、ホスピタリティの意味と果たす役割を理解することができる。 2. ホスピタリティが生み出す要素を理解できる。 3. ホスピタリティの概念を理解し、実際に発揮できる。						
授業計画	第1回 オリエンテーション：授業履修にあたっての説明 概要説明 第2回 ホスピタリティの原義：ホスピタリティの語源 ホスピタリティとサービスの比較 第3回 ホスピタリティと人間：ホスピタリティの起源 他者理解 第4回 ホスピタリティと文化：ホスピタリティの文化的差異 地域のホスピタリティ 第5回 ホスピタリティと産業Ⅰ：日本のおもてなしを考える（グループディスカッション実施） 第6回 ホスピタリティと産業Ⅱ：エアラインにおけるホスピタリティ～ANAを例に～ 第7回 ホスピタリティとチームワーク：チームワークの重要性 チームの力と個人の力 第8回 ホスピタリティを伝える基本Ⅰ：ホスピタリティとコミュニケーションの関係 第9回 ホスピタリティを伝える基本Ⅱ：異文化コミュニケーションを考える 第10回 言葉で表すホスピタリティ：敬語表現の基礎 社会で活用できる表現 第11回 表現力Ⅰ：非言語コミュニケーションの重要性 表情が与える印象とは 第12回 表現力Ⅱ：ホスピタリティを伝える行動様式 立ち居振る舞い 第13回 事例研究Ⅰ：リッツカールトンに学ぶホスピタリティ 第14回 事例研究Ⅱ：東京ディズニーリゾートのホスピタリティ 第15回 まとめ：全体のまとめと振り返り レポート作成						
授業外における学習（準備学習の内容）	授業後学習：配付資料を読み、復習すること。 最終的には理解した内容を実生活に取り入れることに繋げるため、毎回の授業を理解し実際に行動化することが大切である。						
授業方法	パワーポイントを使用し講義を行う。 また、授業後半部分はグループワークや実習を行うため各人の積極的な授業参加を期待する。						
評価基準と評価方法	・小レポート20%、第15回まとめレポート50%、授業参加態度・出席30%とし、総合的に判断し評価する。 *欠席は5回までとし（遅刻含む）、それ以上は失格となるため各自で留意しておくこと。 *詳細は第1回オリエンテーションで説明するので必ず出席し確認すること。						
教科書	テキストは使用しない。毎回レジュメを配付するので各自でファイリングし授業に持参すること。						
参考書							

科目区分	キャリア系列／キャリア・ビジネス教育系列						
科目名	ホスピタリティ・マネジメント						
担当教員	土肥 伊都子・鷺北 千草						
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	金曜4	配当学年	1～2	単位数	2.0
授業のテーマ	ホスピタリティの探求と発揮						
授業の概要	ホスピタリティを様々な角度から取り上げ、これからの産業におけるホスピタリティの重要性を理解し行動につなげる。 現代は様々な場面でホスピタリティの重要性が高まっている。この授業では、エアライン、ホテル、飲食業のサービスや仕事などを題材に取り上げながら、ホスピタリティが生み出す価値の重要性について広く考察していく。また、授業を通じて受講生がホスピタリティの概念について考え、創造できるようになることを目指す。						
到達目標	1. 現代の日本社会において、ホスピタリティの意味と果たす役割を理解することができる。 2. ホスピタリティが生み出す要素を理解できる。 3. ホスピタリティの概念を理解し、実際に発揮できる。						
授業計画	第1回 オリエンテーション：授業履修にあたっての説明 概要説明 第2回 ホスピタリティの原義：ホスピタリティの語源 ホスピタリティとサービスの比較 第3回 ホスピタリティと人間：ホスピタリティの起源 他者理解 第4回 ホスピタリティと文化：ホスピタリティの文化的差異 地域のホスピタリティ 第5回 ホスピタリティと産業Ⅰ：日本のおもてなしを考える（グループディスカッション実施） 第6回 ホスピタリティと産業Ⅱ：エアラインにおけるホスピタリティ～ANAを例に～ 第7回 ホスピタリティとチームワーク：チームワークの重要性 チームの力と個人の力 第8回 ホスピタリティを伝える基本Ⅰ：ホスピタリティとコミュニケーションの関係 第9回 ホスピタリティを伝える基本Ⅱ：異文化コミュニケーションを考える 第10回 言葉で表すホスピタリティ：敬語表現の基礎 社会で活用できる表現 第11回 表現力Ⅰ：非言語コミュニケーションの重要性 表情が与える印象とは 第12回 表現力Ⅱ：ホスピタリティを伝える行動様式 立ち居振る舞い 第13回 事例研究Ⅰ：リッツカールトンに学ぶホスピタリティ 第14回 事例研究Ⅱ：東京ディズニーリゾートのホスピタリティ 第15回 まとめ：全体のまとめと振り返り レポート作成						
授業外における学習（準備学習の内容）	授業後学習：配付資料を読み、復習すること。 最終的には理解した内容を実生活に取り入れることに繋げるため、毎回の授業を理解し実際に行動化することが大切である。						
授業方法	パワーポイントを使用し講義を行う。 また、授業後半部分はグループワークや実習を行うため各人の積極的な授業参加を期待する。						
評価基準と評価方法	・小レポート20%、第15回まとめレポート50%、授業参加態度・出席30%とし、総合的に判断し評価する。 *欠席は5回までとし（遅刻含む）、それ以上は失格となるため各自で留意しておくこと。 *詳細は第1回オリエンテーションで説明するので必ず出席し確認すること。						
教科書	テキストは使用しない。毎回レジュメを配付するので各自でファイリングし授業に持参すること。						
参考書							

科目区分	キャリア系列／キャリア・ビジネス教育系列						
科目名	簿記・会計の基礎／簿記・会計A						
担当教員	倉島 進						
学期	前期／1st semester	曜日・時限	月曜4	配当学年	1～2	単位数	2.0
授業のテーマ	企業の経理の仕組みを通じて、必要な簿記の知識を習得する。						
授業の概要	この授業では、会社活動とお金儲けの仕組みを勉強します。経営者は、お金の動きについて記録し財務諸表という報告書を作成し報告する義務があります。その報告書作成に必要な知識が簿記です。授業で実際に報告書を作成し記録のパターンを習得します。簿記に慣れ親しめるように、いわゆる簿記検定試験に出る難しい論点を排除し、簿記の全体像をつかむことを主眼とします。そのため、日商簿記3級に挑戦する方は「簿記・会計の実践」を続けて受講することをお勧めします。						
到達目標	企業実務ににおいて経理担当者レベルの簿記の知識の習得						
授業計画	1 オリエンテーション（簿記とは何か？） 2 簿記の世界へようこそ！ 3 簿記を使って記録してみよう 4 簿記を使って記録してみよう（実践演習） 5 報告書を作ってみよう（今までのまとめ） 6 現金とはなにか？ 7 商品売買のしくみ（商品を仕入れること） 8 商品売買のしくみ（商品を売ること） 9 固定資産の売買とその処理 10 その場面ではこの仕訳（その他の債権債務） 11 簿記一巡の仕訳の流れ（まとめとして） 12 決算の流れ 13 決算をやってみよう 14 帳簿の締切と報告書の作成 15 総まとめと試験						
授業外における学習（準備学習の内容）	予習をするより、毎回の授業の内容を理解するようにテキストを読んでください。参考資料も配布しますので、ぜひやってみてください。						
授業方法	テキストとして、『知る・わかる・わかる はじめての簿記入門』を利用して、授業を進めます。場合によっては、補充プリント等を配布することで、授業の理解度を深めてもらいます。簿記は、積み上げですので、できるかぎり出席をしてください。授業中の演習を含めて、授業中での理解を深めてもらいます。参加型の授業を目指していますので、授業中の発言に対して、加点します。どんどん発言してください。（正解不正解は関係ありません）「簿記・会計の実践」を続けて受講することで、日本商工会議所主催の簿記検定試験3級の合格レベルへ到達する予定です。						
評価基準と評価方法	評価は、授業中の発表（小テストを含む）、定期試験を加味して評価する。 平常点50%、残り50%						
教科書	知る・わかる・わかる はじめての簿記入門』平成29年2月改定版（セルバ出版） ISBN: 978-4-8637-283-3-C2034						
参考書	初回時に発表する。						

科目区分	キャリア系列／キャリア・ビジネス教育系列						
科目名	簿記・会計の基礎／簿記・会計A						
担当教員	倉島 進						
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	月曜4	配当学年	1～2	単位数	2.0
授業のテーマ	企業の経理の仕組みを通じて、必要な簿記の知識を習得する。						
授業の概要	この授業では、会社活動とお金儲けの仕組みを勉強します。経営者は、お金の動きについて記録し財務諸表という報告書を作成し報告する義務があります。その報告書作成に必要な知識が簿記です。授業で実際に報告書を作成し記録のパターンを習得します。簿記に慣れ親しめるように、いわゆる簿記検定試験に出る難しい論点を排除し、簿記の全体像をつかむことを主眼とします。そのため、日商簿記3級に挑戦する方は「簿記・会計の実践」を続けて受講することをお勧めします。						
到達目標	企業実務において経理担当者レベルの簿記の知識の習得						
授業計画	1 オリエンテーション（簿記とは何か？） 2 簿記の世界へようこそ！ 3 簿記を使って記録してみよう 4 簿記を使って記録してみよう（実践演習） 5 報告書を作ってみよう（今までのまとめ） 6 現金とはなにか？ 7 商品売買のしくみ（商品を仕入れること） 8 商品売買のしくみ（商品を売ること） 9 固定資産の売買とその処理 10 その場面ではこの仕訳（その他の債権債務） 11 簿記一巡の仕訳の流れ（まとめとして） 12 決算の流れ 13 決算をやってみよう 14 帳簿の締切と報告書の作成 15 総まとめと試験						
授業外における学習（準備学習の内容）	予習をするより、毎回の授業の内容を理解するようにテキストを読んでください。参考資料も配布しますので、ぜひやってみてください。						
授業方法	テキストとして、『知る・わかる・わかる はじめての簿記入門』を利用して、授業を進めます。場合によっては、補充プリント等を配布することで、授業の理解度を深めてもらいます。簿記は、積み上げですので、できるかぎり出席をしてください。授業中の演習を含めて、授業中での理解を深めてもらいます。参加型の授業を目指していますので、授業中の発言に対して、加点します。どんどん発言してください。（正解不正解は関係ありません）「簿記・会計の実践」を続けて受講することで、日本商工会議所主催の簿記検定試験3級の合格レベルへ到達する予定です。						
評価基準と評価方法	評価は、授業中の発表（小テストを含む）、定期試験を加味して評価する。 平常点50%、残りで50%						
教科書	知る・わかる・わかる はじめての簿記入門』平成29年2月改定版（セルバ出版）						
参考書	初回時に発表する。						

科目区分	キャリア系列／キャリア・ビジネス教育系列																																				
科目名	簿記・会計の実践／簿記・会計B																																				
担当教員	植田 麻衣子																																				
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	火曜4	配当学年	1～2	単位数	2.0																														
授業のテーマ	「簿記・会計の基礎」の内容を踏まえて、日商簿記検定試験に挑戦できるレベルの知識を達成する																																				
授業の概要	この授業では、会社活動とお金儲けの仕組みを勉強します。経営者は、お金の動きについて記録し財務諸表という報告書を作成し報告する義務があります。その報告書作成に必要な知識が簿記です。簿記に慣れ親しめるように、できるだけやさしい言葉で解説します。簿記は続けて学習することが大切であり、自己トレーニングも必要です。「簿記・会計の基礎」の知識を生かしつつ、授業中に配布の問題や参考図書の問題集に取り組むことで、日商簿記検定試験3級合格レベルの力をつけていきます。																																				
到達目標	授業を受け、日々の簿記の練習を行うことによって日商簿記検定試験3級合格レベルに到達することを目標とする																																				
授業計画	<table border="0"> <tr><td>1</td><td>オリエンテーション</td></tr> <tr><td>2</td><td>簿記一巡の流れ（「簿記・会計の基礎」の総復習）</td></tr> <tr><td>3</td><td>手形</td></tr> <tr><td>4</td><td>小口現金、資本金</td></tr> <tr><td>5</td><td>商品有高帳の記入</td></tr> <tr><td>6</td><td>決算の流れ、決算整理作業（経過勘定科目）</td></tr> <tr><td>7</td><td>決算の流れ、決算整理作業の復習（資産評価）</td></tr> <tr><td>8</td><td>決算の流れ、決算整理作業の復習（引当金）</td></tr> <tr><td>9</td><td>決算の流れ、決算整理作業の復習～帳簿の締め切り</td></tr> <tr><td>10</td><td>物を売るということ</td></tr> <tr><td>11</td><td>物を買うということ</td></tr> <tr><td>12</td><td>帳簿組織～記録すること、伝票会計</td></tr> <tr><td>13</td><td>第3問対策問題</td></tr> <tr><td>14</td><td>総まとめと後期試験</td></tr> <tr><td>15</td><td>後期総まとめ（演習）</td></tr> </table>							1	オリエンテーション	2	簿記一巡の流れ（「簿記・会計の基礎」の総復習）	3	手形	4	小口現金、資本金	5	商品有高帳の記入	6	決算の流れ、決算整理作業（経過勘定科目）	7	決算の流れ、決算整理作業の復習（資産評価）	8	決算の流れ、決算整理作業の復習（引当金）	9	決算の流れ、決算整理作業の復習～帳簿の締め切り	10	物を売るということ	11	物を買うということ	12	帳簿組織～記録すること、伝票会計	13	第3問対策問題	14	総まとめと後期試験	15	後期総まとめ（演習）
1	オリエンテーション																																				
2	簿記一巡の流れ（「簿記・会計の基礎」の総復習）																																				
3	手形																																				
4	小口現金、資本金																																				
5	商品有高帳の記入																																				
6	決算の流れ、決算整理作業（経過勘定科目）																																				
7	決算の流れ、決算整理作業の復習（資産評価）																																				
8	決算の流れ、決算整理作業の復習（引当金）																																				
9	決算の流れ、決算整理作業の復習～帳簿の締め切り																																				
10	物を売るということ																																				
11	物を買うということ																																				
12	帳簿組織～記録すること、伝票会計																																				
13	第3問対策問題																																				
14	総まとめと後期試験																																				
15	後期総まとめ（演習）																																				
授業外における学習（準備学習の内容）	簿記検定は慣れが必要です。そのためには、日ごろから、課題等を含め、自身での練習が必要です。																																				
授業方法	<p>テキストとして、知る・わかる・わかる はじめての簿記入門』を利用して、授業を進めます。場合によっては、補充プリント等を配布することで、授業の理解度を深めてもらいます。授業⇒演習と繰り返して、理解力をアップを図ります。簿記は、積み上げですので、できるかぎり出席をしてください。授業中の演習を含めて、授業中での理解を深めてもらいます。</p> <p>本講座は、簿記に関する基礎知識を習得していることを前提として、授業を行いますので、「簿記・会計の基礎」の受講者もしくは、高校等で簿記会計に関する授業の経験者のレベルに設定して授業と、演習を繰り返して行います。授業を通じて、日本商工会議所主催の簿記検定試験3級の合格レベルへ到達する予定です。簿記は自己学習も必要です。このために、テキストと並行した問題集で問題演習を含めていただきます。</p>																																				
評価基準と評価方法	評価は、授業中の発表（小テストを含む）、定期試験を加味して評価する。 平常点（授業中の発表、小テスト）60%、定期試験で40%																																				
教科書	知る・わかる・わかる はじめての簿記入門』平成25年12月改定版（セルバ出版）																																				
参考書	初回時に発表する。																																				